

情報リテラシー教育と評価

学術情報リテラシー教育担当者研修

2015年11月18日(水) NII

帝京大学高等教育開発センター 上岡真紀子

背景： 高等教育界の動向

高等教育界の動向①

- 2008年 中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」(答申)
- 学士課程教育の質保証
 - 学位授与の方針の明確化・実質化
- 到達目標を設定して、その達成を目指してカリキュラム・授業を設計し、その成果を検証しながら、教育の質の向上を図っていく

高等教育界の動向②

- 2012年 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(答申)
- 教授から学修への転換
 - 学生が主体的に学ぶ、能動的学修アクティブ・ラーニングへの転換へ

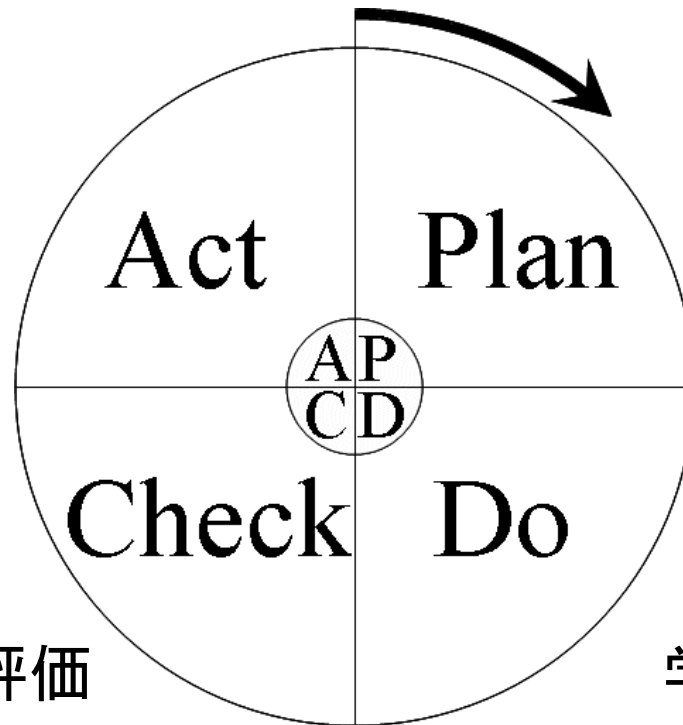
PDCAサイクルを回す

[改善]

ファカルティ・
ディベロップメント

[評価]

学生による授業評価
学習成果の評価



[計画]

到達目標の設定
シラバス作成

[実施]

学生による主体的学び
アクティブラーニング

図書館の教育活動

図書館が行う教育活動 : 授業・セミナー

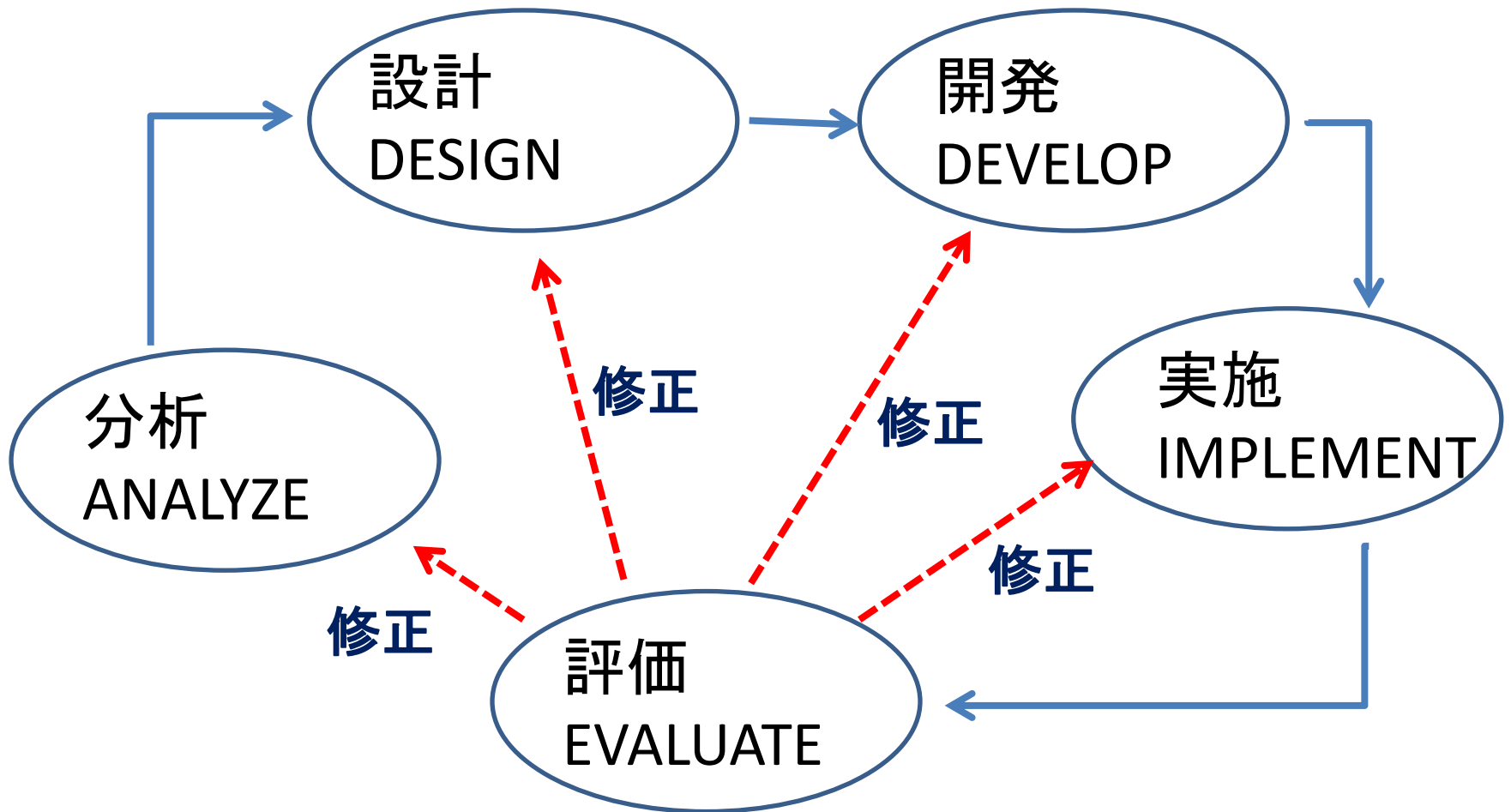
- 「何を教えたか」でなく、学生が「何を学んだのか」への転換
- 学生による主体的な学びの経験の導入
- 到達目標を達成度を測定して質を保証

→ **学習成果・成果の評価・主体的な学び**
を重視した授業・セミナーへ

- 到達目標を設定して、その達成を目指して授業・セミナーを設計し、その成果を検証しながら、図書館の教育活動の質の向上を図っていく

授業・セミナーの設計 インストラクショナルデザイン

ADDIEモデル



R.M. ガニエ 『インストラクショナルデザインの原理』より

分析フェーズ

利用者調査

- 目的

サービス対象である利用者の行動・考え方・感じ方を知り, その結果をサービスの開発や改善に活かす

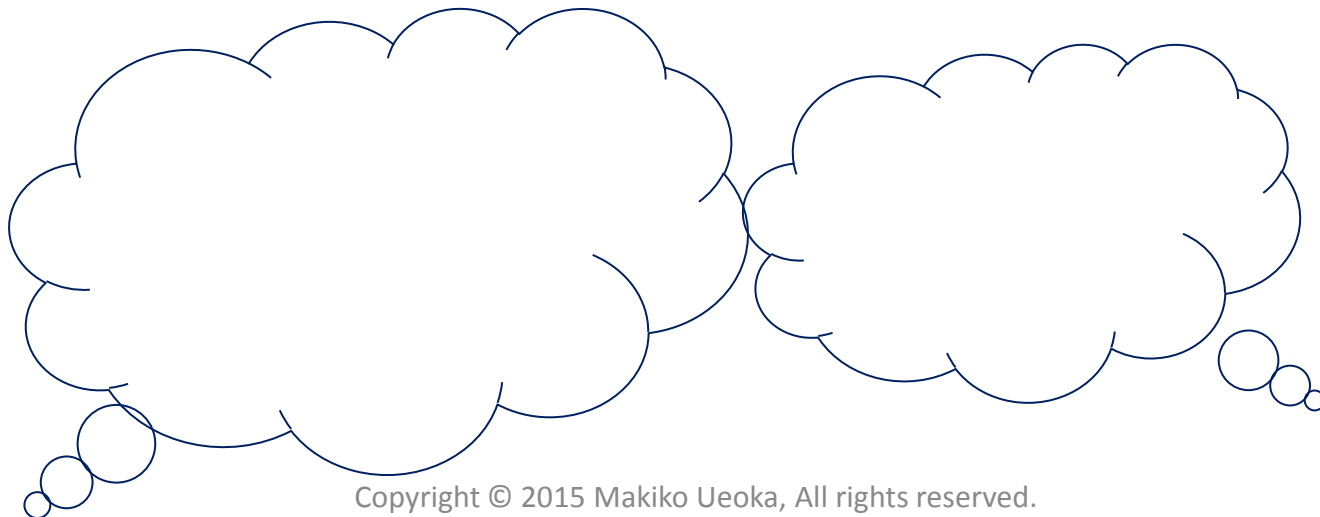


情報リテラシー教育についての 学生の語り①

- 館内ツアー，OPACセミナーって知ってる？

「青いのにいつも貼ってませんか？ やってるんだと思うんですけど，参加はしていません。(なぜ?) ちょっとお堅いっていうか，そこまでしてなのかなっていうふうに思っちゃうし，ツアーだと話が長いだろうなっていう，抵抗感があります。」

「趣旨がよくわからないです。その場でわからなかったら聞けばいいので。」



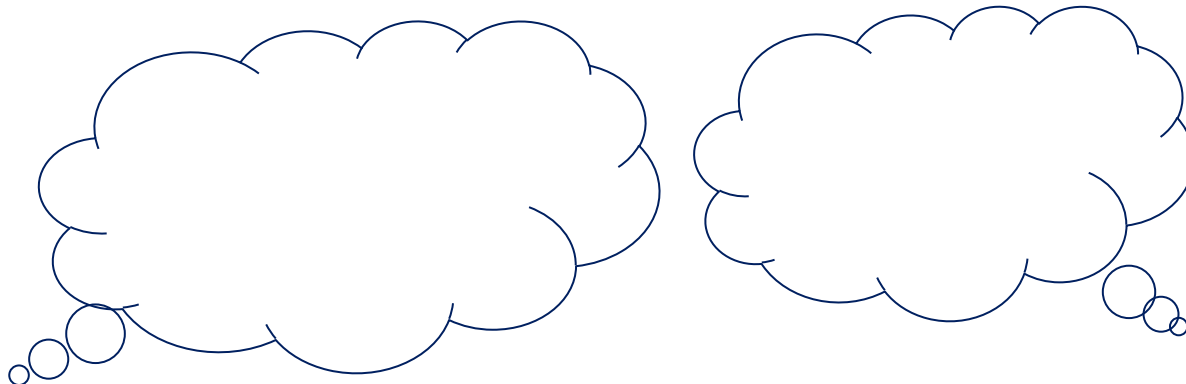
情報リテラシー教育についての 学生の語り②

- 「情報リテラシー入門(90分の講義)」はどうだった？

「正直出てない人の方が多かった。課題だけやって終わらせた人もいるし。私はなんだかよくわからなかったです。(内容が難しかった?)う〜ん、記憶にないからそこまで印象にないのかな。普通のことを言われた記憶があります。」

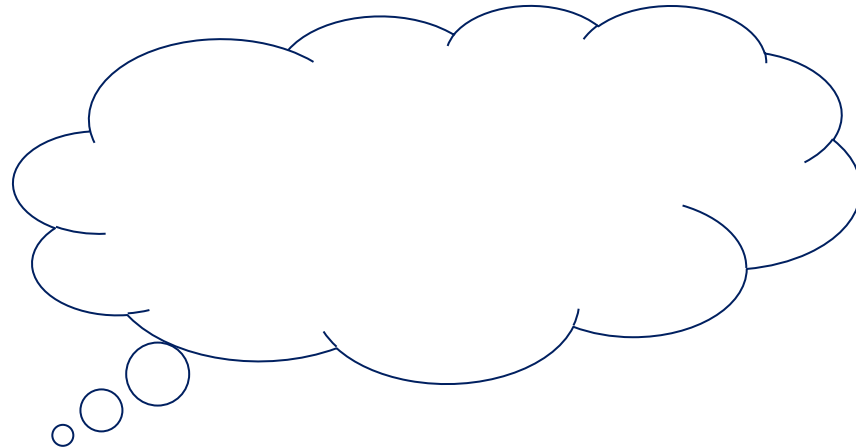
「いきなり検索のコツみたいのがあって、課題も面倒くさくて、そんなことしなくても別の方法で情報は得られるし、みたいな感じで。入門的なことすぎたのかなと。」

「図書館をより効率よく、本を検索できるようにということだったら、あれが限界かなと思いますけど。」



情報リテラシー教育についての 学生の語り③

- 「友達には大学に入って初めてレポートを書くという人が多くて、そういう人はレポートの形式に慣れていなくて全然分からないという人が多かったので、...」
- 「レポートは全然書いたことが無いので、相談とかは魅力ですね。」



①への対応 * 方法の改善

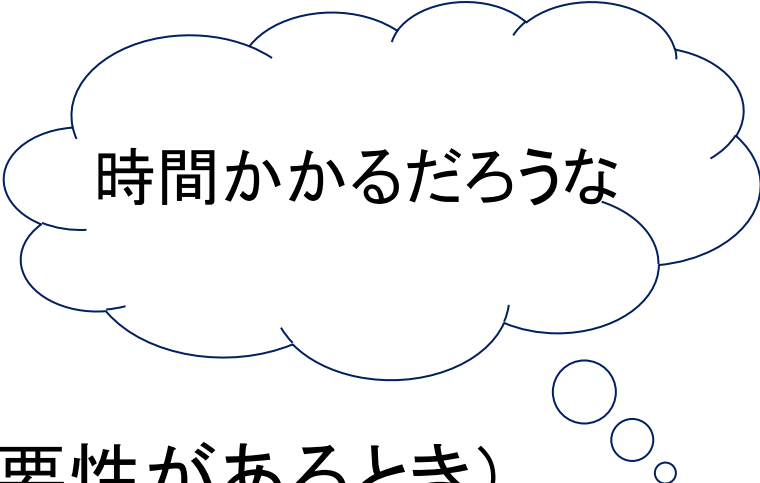
(わざわざ時間を割いてこなくても)知りたいときに知ることができるようにする

→ OPACの横、ウェブ上にマニュアルを置いておく

ex) University of Washington

①②への対応 * 方法の改善

- 学生がすでに知っていることは省く
「キーワードを入れたらエンターキーを
押してください・・・」



時間かかるだろうな

①②③への対応

- レポート課題が出たとき(=必要性があるとき)
にレポートの書き方の説明の一環として行う

③への対応 * 新たなサービスの企画

- 「スタディ・サポート(学習相談)」サービスの開始
先輩学生による学習相談デスク

教養研究センター
日吉メディアセンター
日吉学生部共催

正しい論文の書き方
ってなんだ?

レポートとプレゼンの課題
どう乗り切ればいいんだ?

文献の集め方は?
どこからどこまでが割切?

…そんな困っているあなたに強い味方が…

学習相談

期間: 2014年10月1日(水)~2015年1月16日(金)
時間: 平日13:00~18:30
場所: 日吉図書館1F, スタディサポート(学習相談)

秋学期シフト表
※予約不要

	月	火	水	木	金
3限 13:00~14:45	大学院生	大学院生	大学院生	法学部4年	経済学部 2年
4限 14:45~16:30	大学院生	高学部4年	文学部4年	法学部4年	経済学部2年 文学部4年
5限 16:30~18:30	大学院生	高学部4年	文学部4年	大学院生	文学部4年

学習相談は、塾生が塾生の学習の相談にのる窓口です。わからないことがあれば、気軽にお立ち寄り下さい!

図書館のオリエンテーション、 DB講座に人が集まらない...

- なぜか？
- どうすればよいか？

もっと広報すればよい??



必要



知らない・
できない

学生を動機づけるのは

「DB講座」へのニーズは？

– そのDBの利用が必要な課題はどのくらい出されているのか？

→ 課題がなければ使わない

– (本当はそのDBを使った方が良いのだが)そのDBを利用しなくても単位がでるようになっているのではないか？

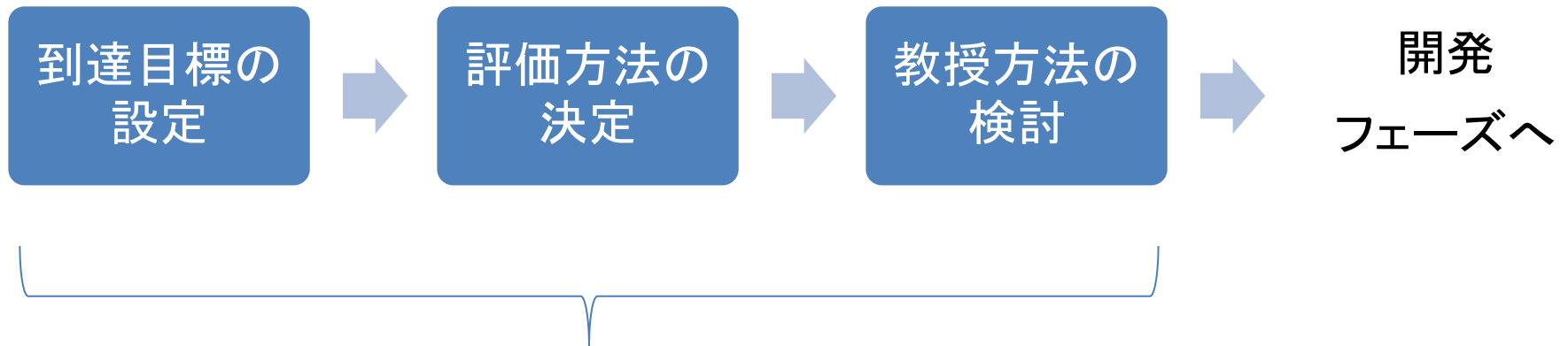
→ ネットで調べても単位が来るなら使わない

分析フェーズは...

1. 自分たちで行う
2. 他大学の結果を参照する
3. 研究者の研究成果を参照する

設計フェーズ

設計フェーズですること



到達目標の設定

- デザインは、「到達目標(学習目標)」をたてることから始まる
- 適切に目標設定ができるようになる

到達目標の設定

- ここでは、特定のニーズ(必要なのに知らない・できない)に対して、
具体的に何ができるようになればよいのか
= **到達目標** を設定する



レポートの書き方を
教えてほしい

細分化

レポートを書くために
適した情報を判断で
きる

【図書館のプログラム
全体のねらい】

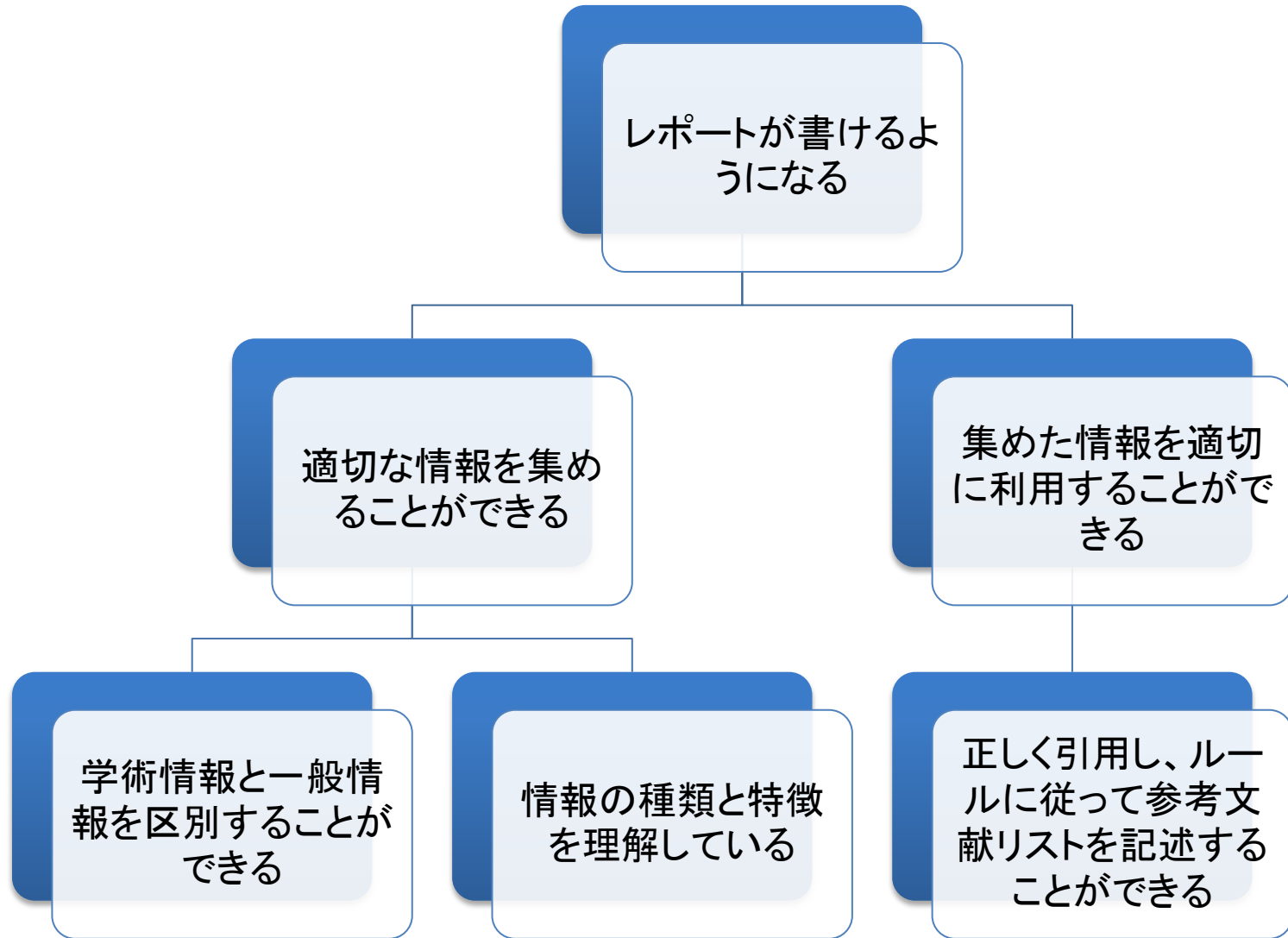
学術情報と一般情
報の存在と違いを説
明できる

レポートでは、情報
を根拠として利用す
ることを知っている

利用可能な情報の
見分け方を知ってい
る

【各セミナーにおける到達目標】

階層化



調節

- 到達目標を定めることで,
 - 何が必要で, 何が必要でないかが明確になる
 - 必要なことだけを, いかに工夫して教えればよいかを考えられる状態になる

今回は90分！

⇒ 到達目標を絞り込む

最も「ニーズ」に合うものを選ぶ！！！！

評価方法の決定

- 評価： 学習成果（アウトカム）の測定
- 学習成果は、学習者が学習目標に達成したかどうかで判断される

学術情報と一般情報
の存在と違いを説明
できる

教育目標の分類

- **認知的領域 (Cognitive Domain)**
 - ・知識・理解・高次の論理的思考力等
 - ・ある程度、ペーパーテスト等で測定可能
- **情意的領域 (Affective Domain)**
 - ・価値観、学習意欲、態度等
 - ・評価が困難
- **精神運動的領域 (Psychomotor Domain)**
 - ・「技能表現領域」と呼ばれることもある
 - ・運動技能、操作技術・技能等
 - ・学習行動の観察や活動結果によって評価可能

(Bloom, 1956)

帝京大学高等教育開発センター研修資料より

目標の分類

- 知識・理解：知っている○
例) レポートを書くために適した情報源を見分ける方法を知っている
 - 技能：(やろうと思えば)できる○
例) レポートを書く際に図書館のデータベースを利用できる
-

態度：実際に使う△

例) レポートを書く際に、図書館のデータベースを使う

評価側面と評価方法

	興味・ 関心	知識・ 理解	思考力・ 論理力	態度	技能
標準テスト		◎	○	○	
教師作成テスト		◎	○	○	
質問紙法	◎			○	
観察記録法	◎	○	○	○	◎
レポート法	○	○	◎	◎	○

梶田叡一．教育評価，有斐閣，2002

新しい評価へ

- 真正の評価・パフォーマンス評価
⇒ ポートフォリオ、ルーブリック

●ポートフォリオ:

学習活動において児童生徒が作成した作文、レポート、作品、テスト、活動の様子が分かる写真やVTRなどをファイルに入れて保存する方法 (グロワード, 1999)

●ルーブリック:

レベルの目安を数段階に分けて記述して、達成度を判断する基準を示すもの (鈴木)

ポートフォリオの例

- 今、みなさんのお手元に

ルーズブリックの例(レポート)

レポートに適した文章表記	段落の字下げができていない	段落の字下げができていない	—	—	課題1に対応
根拠に基づいた主張	どの主張にも根拠が示されていない	いくつかの主張に対して根拠を示そうとしているが、根拠が示されていないものや、根拠として妥当でないものが含まれている	とところどころに不自然な文語表現や誤った表現がみられるが、概ね適切な文語表現で書かれている	口語表現や誤用は見られず、適切で正しい文語表現で書かれている	課題2に対応
引用箇所の明示・引用文献リストの記述	文中に引用箇所が明示されておらず、引用文献リストも付されていない	引用の仕方、引用箇所の明示、引用文献リストのいずれにも誤りや不備が多い	引用の仕方には誤りがないが、引用箇所の表示の誤りや引用文献リストの記述に不備があり十分でない	引用箇所を明示して適切に引用が行われ、引用文献リストも正しく適切に記述されている	
パラグラフの形成と中心文の記述	一つのパラグラフの話題が混在し、全く整理されていない	又も仔仕しないか、不明瞭である	ない	谷も整理されている	
全体構成	目標規定がなく、構成が一貫しない	目標規定らしきものはある	目標規定らしきものはある	目標規定があり、一貫性得力を持って論旨展開している	課題4に対応

上岡が担当する「ライフデザイン演習」
および「基礎演習」用に作成したもの

開発フェーズへ

- コースワークのためのワークシートの作成...
- パワーポイントの作成...
- 評価のためのアンケートやテスト、ルーブリックなどの作成...

評価フェーズ 情報リテラシーの評価

改めて、情報リテラシーとは何か

情報リテラシー教育

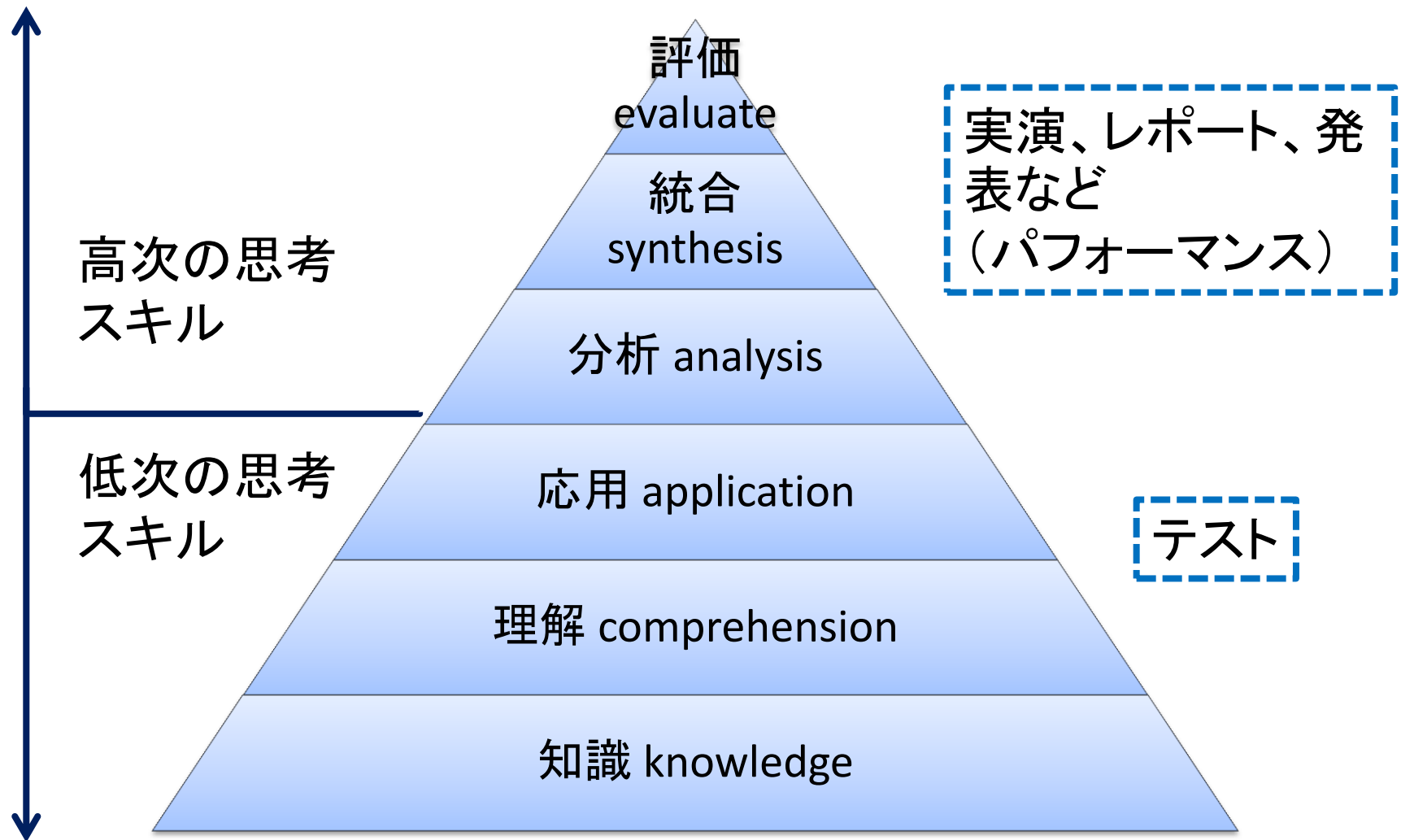
1. 図書館で使えるいろいろなデータベースを知っている
2. 図書館のデータベースを使って図書や雑誌記事などを検索することができる
3. 図書館の利用方法を知っている
4. 図書館をうまく使えるようになる

5. 図書や雑誌記事などを使ってレポートを書くことができる
6. 情報源を評価したり、情報を批判的に評価することができる
7. 情報を使って意思決定や問題解決をすることができる
8. 社会に出た後も学び続けることができる

情報リテラシー

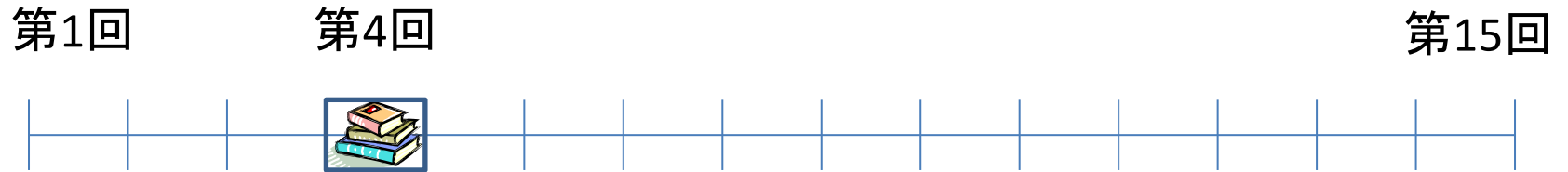
- 情報リテラシーを身に付けた人は、情報が必要なときを認識し、必要な情報を見つけ、評価し、効果的に利用できる人である...究極には彼らは学び方を知る人である。彼らは知識がどのように組織化されるかを知っており、情報を見つけ、それらを他者が学べるように使う方法を知っている。彼らは生涯学習のための準備ができた人である。彼らは仕事や意思決定のために必要な情報を探ることができる。

Bloomの教育目標の分類(改訂版)



図書館員の関わり方

- ワンショット型

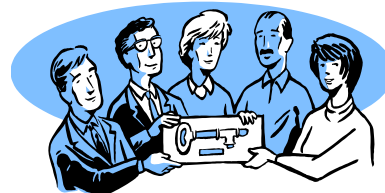


- コラボレーション型

授業の
目標設定

実施

学習成果
の評価



課題

- ワンショット型

- 情報リテラシーを身に付けられるかは疑問

- せめて、図書館やDBを使う課題が出ているときに行いたい。
不可能であれば、科目や授業の到達目標に寄り添ったものにする。(ただし、限界がある)

- コラボレーション型

- コラボレーションするためには、図書館員にも授業のデザインやアクティブラーニング、成果の評価に関する知識とスキルが必要

サービスの評価 vs 学習成果の評価

サービス

「ニーズは満たされたか？」



利用者に聞く



満足度調査

アウトカム

「本当に学修したか？」



学習者に本物の課題をやってもらう



パフォーマンス
課題・評価



学習成果の評価のために

- 学習理論、教授方法、授業デザイン、評価方法への理解を深めましょう！

ありがとうございました